

セキスイ熱膨張耐火材 ファイブロック®

ケーブル区画貫通措置部材

ケーブルラック・バスダクト貫通用
プロセレクトキット

国土交通大臣認定品

取扱説明書

貫通する防火区画

コンクリート壁・床
ALC壁
中空壁・片壁

製品仕様(キット品)

品名	品番	開口サイズ(mm)	プロセレクト ボード(枚)	支持金具 (個)	プロセレクト パテ(600g/袋)
200× 300用 キット	RY-006	200 × 300	1	8	1
200× 400用 キット	RY-008	200 × 400	1	8	2
200× 500用 キット	RY-010	200 × 500	1	8	2
200× 600用 キット	RY-012	200 × 600	1	8	2
200× 700用 キット	RY-014	200 × 700	1	10	3
200× 800用 キット	RY-016	200 × 800	1	10	3
200× 900用 キット	RY-018	200 × 900	1	10	3
200×1000用 キット	RY-020	200 × 1000	1	10	4
200×1100用 キット	RY-022	200 × 1100	1	10	4
200×1200用 キット	RY-024	200 × 1200	1	10	4

製品仕様(プロセレクトパテ単品)

品名	品番	サイズ・入り数
プロセレクトパテ 1キロ	NCJM004	1kg/袋(10袋/ケース)

※後線、補修用としてご使用いただけます。

※その他使用材料：シリコン系または変成シリコン系シーリング材（JIS A 5758）

国土交通大臣認定シールのご案内

弊社では、防火区画貫通部の措置にファイブロック区画貫通措置部材をご使用いただいた場合、国土交通大臣認定を取得していることを示す『認定シール』をご用意しております。ご請求方法は、1現場ごとに弊社ファイブロックHPの「認定シール・評定マーク/評定一括プレート申請」よりご請求願います。申請内容を確認の上、ご請求枚数の『認定シール』を送付させていただきます。



WEB申請はこちらから

https://anet.sekisui.co.jp/fp_doc_dl/webshinsei.aspx

取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意	プロセレクトボード	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間多量にロックウールを吸入すると、呼吸器系に障害を生じる恐れがあります。 ・皮膚に対して一時的に炎症を生じることがあります。 ・切断は、カッターナイフ等の手動工具を使用してください。なお、電動工具による切断を行う場合は、局所排気装置・除じん装置等を設置してください。 ・取扱いに際しては、防じんマスク、長袖の作業衣及びプラスチック製保護手袋等を着用してください。また、必要に応じて保護眼鏡を使用してください。
	プロセレクトパテ	<ul style="list-style-type: none"> ・弱アルカリ性のため、皮膚に対してヌメリが生じることがあります。 ・含有する繊維が皮膚に対して一時的にかゆみや痛みを引き起こすことがあります。 ・取扱いに際しては、長袖の作業衣及びプラスチック製保護手袋等を着用してください。
	共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・取扱い後は、うがい及び手洗いを励行してください。
保管上の注意	プロセレクトボード	<ul style="list-style-type: none"> ・塗装面同士を重ねないでください。塗装面がくっ付き、破損する可能性があります。 ・保管の際は、製品袋に入れ、水に濡れないようにしてください。
	プロセレクトパテ	<ul style="list-style-type: none"> ・製品袋の口を閉じ、高温を避け、常温にて保管してください。 ・水に濡れないようにしてください。

適用範囲

ケーブルラック貫通

貫通部位		壁		床
国土交通大臣認定番号		PS060 WL-0530-2	PS060 WL-0514	PS060 FL-0808
開口部	寸法	0.6㎡以下		
	形状	矩形		
壁または床の仕様 (国土交通大臣が指定もしくは認定した壁・床)		強化せつこうボード 2枚張りの壁(片壁)	ALC壁 コンクリート壁 中空壁	コンクリート床
		厚 42 mm以上	厚 100 mm以上	厚 100 mm以上
ケーブルラック	材料	①一般構造用圧延鋼材 (JISG 3101) ②溶解亜鉛めっき鋼板 (JISG 3302)		
	厚さ	1.6 mm以上		
ケーブル	導体(又は芯線)の 断面積	325 mm ² 以下 (1本あたり)		
		20,297 mm ² 以下 (総合計)		20,255 mm ² 以下 (総合計)
鋼製電線管	規格	JIS C 8305		
	サイズ	呼び径 75 (外径 76.2 mm)以下 長さ 300 mm以上		
合成樹脂製 可とう電線管 (JIS C 8411)		PF管: 呼び径 36 (外径 45.5 mm) 以下 CD管: 呼び径 42 (外径 48.0 mm) 以下		
占積率*		20.8% 以下		
鋼製枠		—		有り又は無し (有りの場合) 床厚さ以上

* 開口面積に対するケーブル・電線管の断面積の総合計の割合

バスダクト貫通

貫通部位		壁		床
国土交通大臣認定番号		PS060WL-0788-2	PS060WL-0789	PS060 FL-0667
開口部	寸法	0.6㎡以下		
	形状	矩形		
壁または床の仕様 (国土交通大臣が指定もしくは認定した壁・床)		強化せつこうボード 2枚張りの壁(片壁)	ALC壁 コンクリート壁 中空壁	コンクリート床
		厚 42 mm以上	厚 100 mm以上	厚 100 mm以上
バスダクト	導体断面積	2,400mm ² 以下 (1本あたり)		
		59,700 mm ² 以下 (総合計)		65,400 mm ² 以下 (総合計)
ケーブル	導体(又は芯線)の 断面積	150 mm ² 以下 (1本あたり)		325 mm ² 以下 (1本あたり)
		1,103 mm ² 以下 (総合計)		2,485 mm ² 以下 (総合計)
鋼製電線管	規格	JIS C 8305		
	サイズ	呼び径 75 (外径 76.2 mm)以下 長さ 250 mm以上		
合成樹脂製 可とう電線管 (JIS C 8411)		PF管: 呼び径 36 (外径 45.5 mm) 以下 CD管: 呼び径 42 (外径 48.0 mm) 以下		
占積率*		23.3% 以下		18.3% 以下
鋼製枠		—		有り又は無し (有りの場合) 露出部分 50mm以下

* 開口面積に対するバスダクト・ケーブル・電線管の断面積の総合計の割合

●詳しくは各認定書をご確認ください。

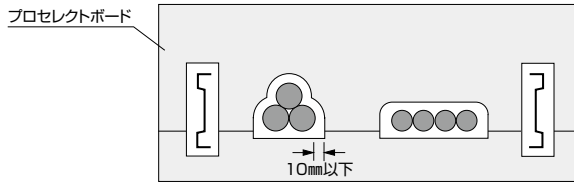


認定書一覧はこちらから

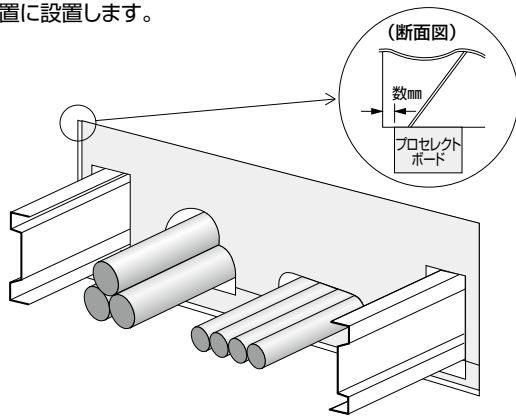
<https://www.sekisui.co.jp/fp/technology/index.html>

◎施工手順

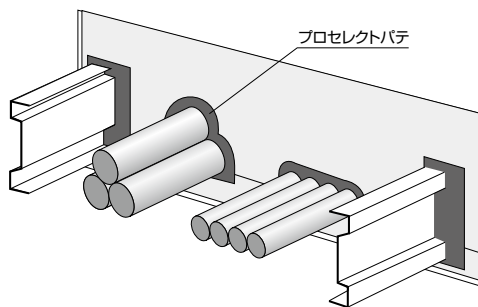
- 1.開口サイズ、ケーブル占積率及び壁厚等が適正であることを確認します。
- 2.プロセレクトボードを開口部の寸法、貫通部のケーブル・電線管等の形状に合わせて切断します。その際、プロセレクトボードとケーブル・電線管との隙間は、10mm以下とします。



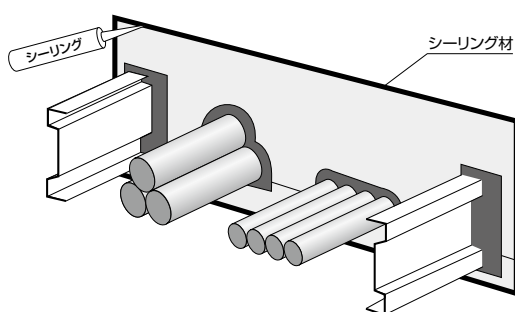
- 3.開口部に、手順1で加工したプロセレクトボードを、壁面から数mm入った位置に設置します。



- 4.プロセレクトボードとケーブルの隙間にプロセレクトパテを密に充填します。
その場合、ケーブルまたは電線管貫通部は、奥行き30mm以上とします。
また、325mm²のケーブル部の隙間は全て充填し、追加してプロセレクトボードから両側へ長さ30mm以上、厚さ10mm以上になるように巻き付けます。

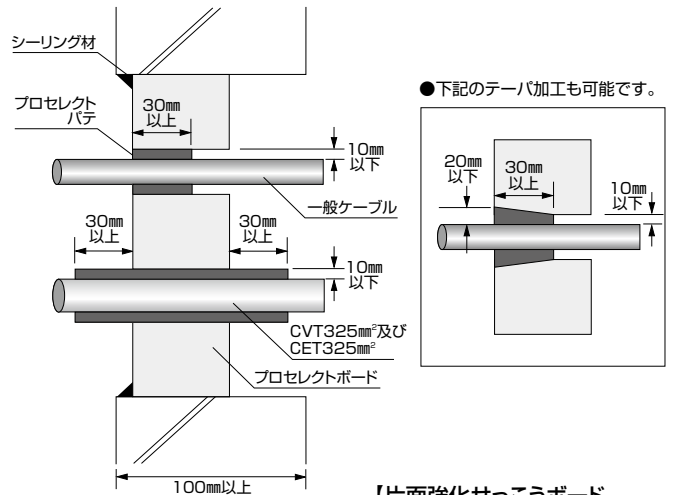


- 5.開口の四周にシーリング材(シリコン系または変成シリコン系)(市販)を施工します。

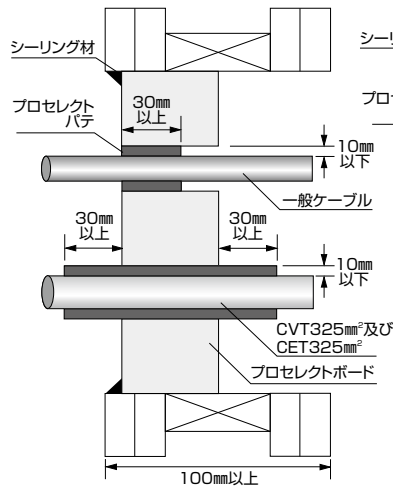


◎標準施工図

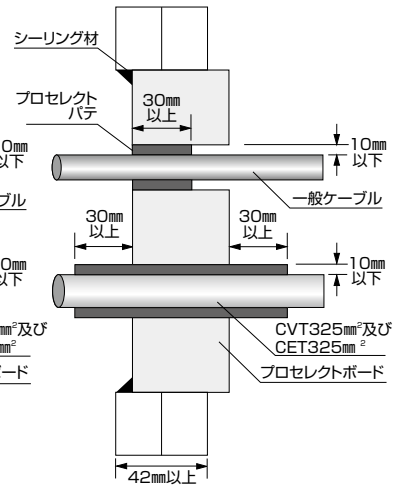
【ALC/コンクリート壁の場合】



【中空壁の場合】

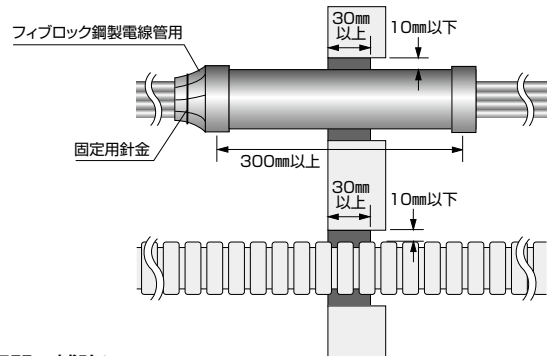


【片面強化せつこうボード(厚21mm)2枚張りの壁の場合】



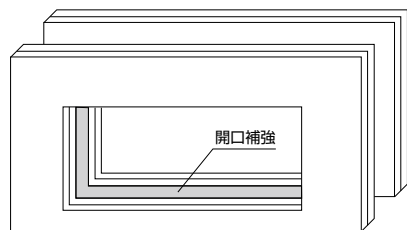
■電線管を設置する場合

PF/CD管の場合：ケーブル部と同様にプロセレクトパテを充填します。
鋼製電線管の場合：鋼製電線管長さは300mm以上とし、プロセレクトボードとの隙間にはケーブル部と同様にプロセレクトパテを充填します。さらに「フィブロック鋼製電線管用」(別売)を施工します。



■開口補強について

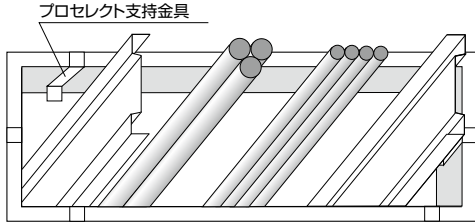
中空壁の場合、鋼製又は壁を構成する壁材と同等の材料による開口補強を設けてください。



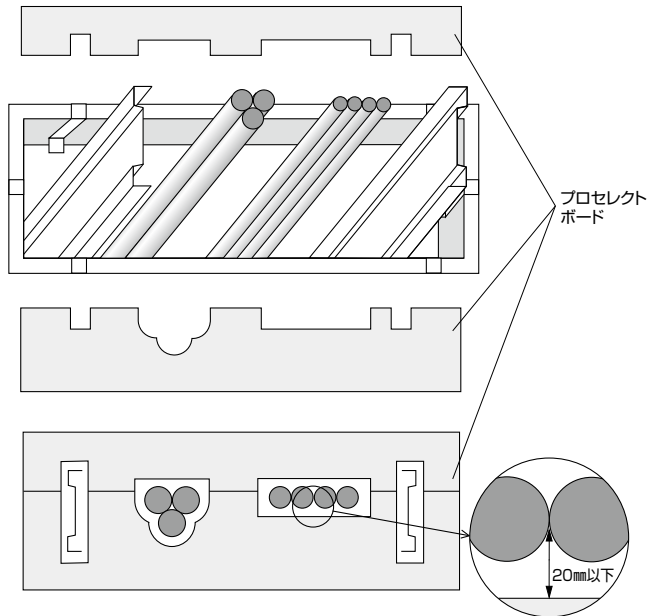
※片面強化せつこうボード(厚み21mm)2枚張りの壁の場合、開口補強の有無は問いません。

◎施工手順

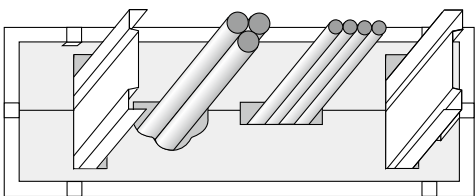
1. 開口サイズ、ケーブル占積率及び床厚等が適正であることを確認します。
2. プロセレクト支持金具を接着剤、両面テープあるいはビスにて、開口部に設置します。プロセレクトボードの目地部と1辺につき1個以上設置します。



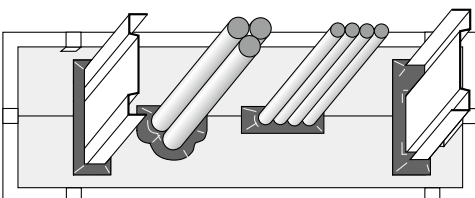
3. プロセレクトボードを開口部の寸法、貫通部のケーブル・電線管等の形状に合わせて切断します。その際、プロセレクトボードとケーブル・電線管との隙間は、20mm以下とします。



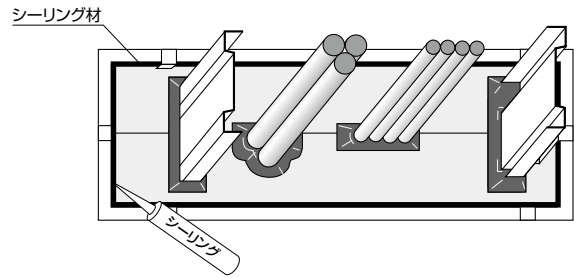
4. 開口部に手順2で加工されたプロセレクトボードをプロセレクト支持金具にあたる位置まで設置します。



5. ケーブルまわりにプロセレクトパテを厚み20mm以上、高さ30mm以上のテーパ状に盛りつけます。CVT又はCET 325mm²のケーブルには、さらに厚み10mm以上で総高さ50mm以上になるよう巻き付けます。

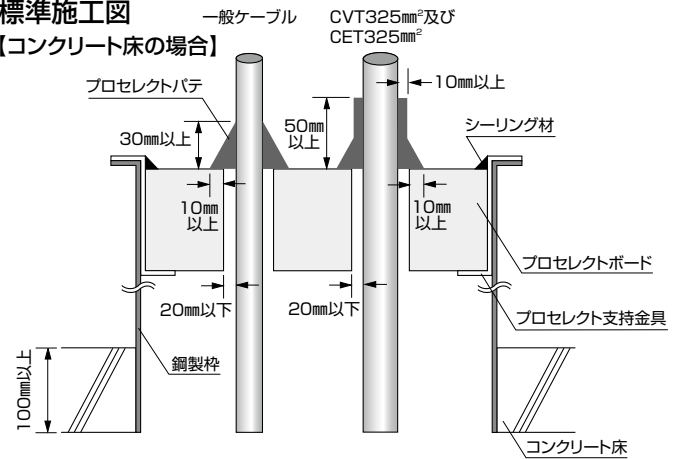


6. 開口の四周にシーリング材(シリコン系あるいは変成シリコン系(市販))を施工します。



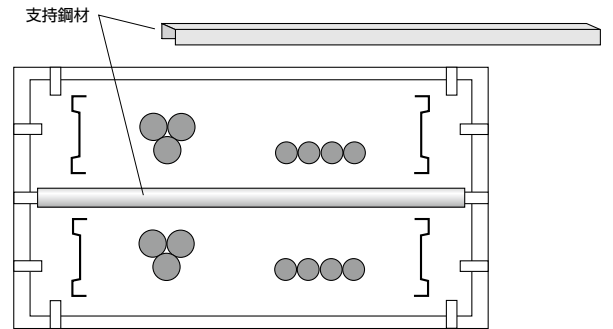
◎標準施工図

【コンクリート床の場合】



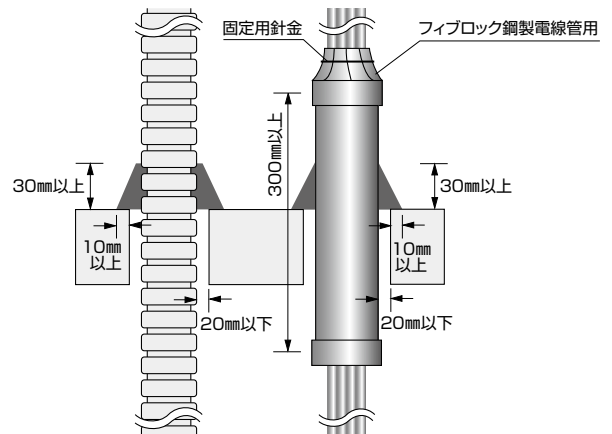
■ケーブルラックを2段設置している場合

市販の支持鋼材(幅25mm以上、高さ19mm以上、厚さ0.5mm以上)をご用意いただき、ケーブルラック間に設置したプロセレクト支持金具に橋渡ししてください。



■電線管を設置する場合

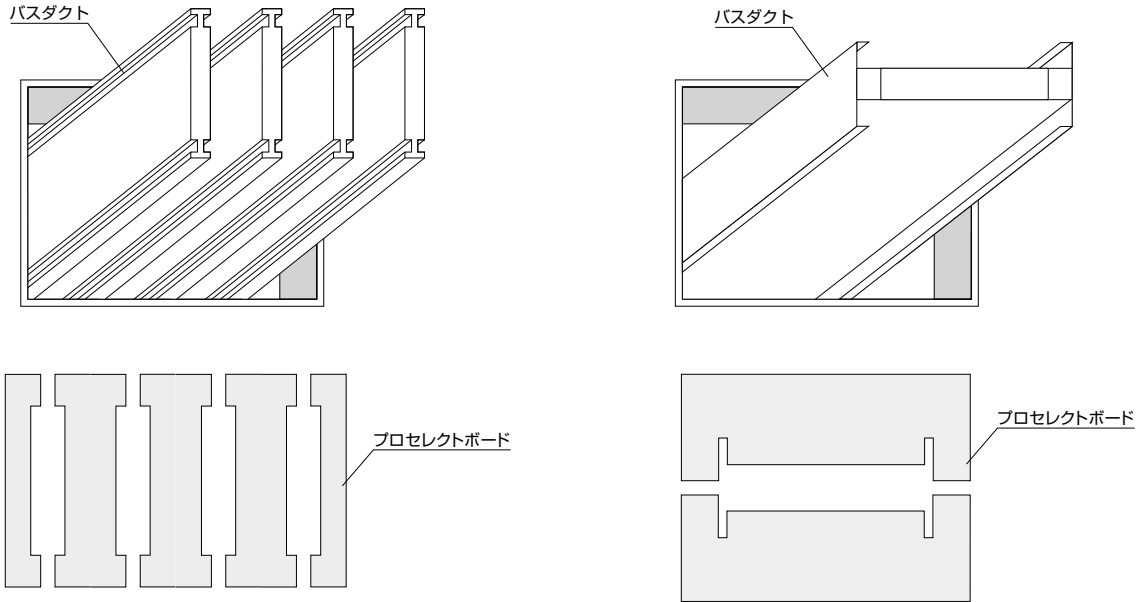
PF/CD管の場合：ケーブル部と同様にプロセレクトパテを盛りつけます。鋼製電線管の場合：鋼製電線管長さは300mm以上とし、ケーブル部と同様にプロセレクトパテを盛りつけ、さらに「フィブロック鋼製電線管用」(別売)を施工します。



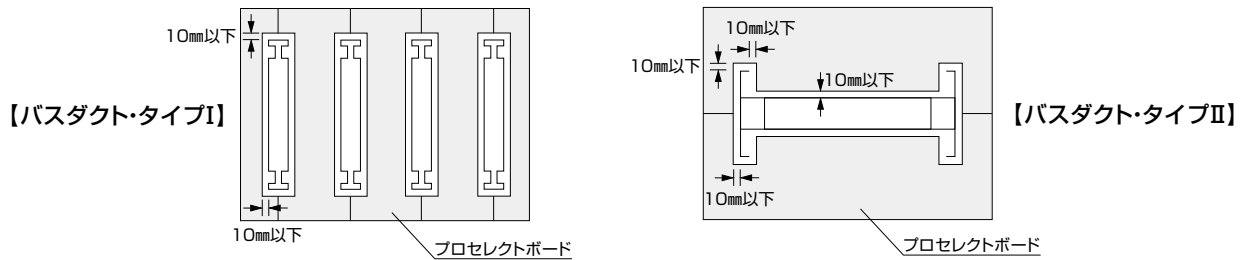
◎施工手順

1. 開口サイズ、バスダクト、ケーブル占積率及び壁厚等が適正であることを確認します。

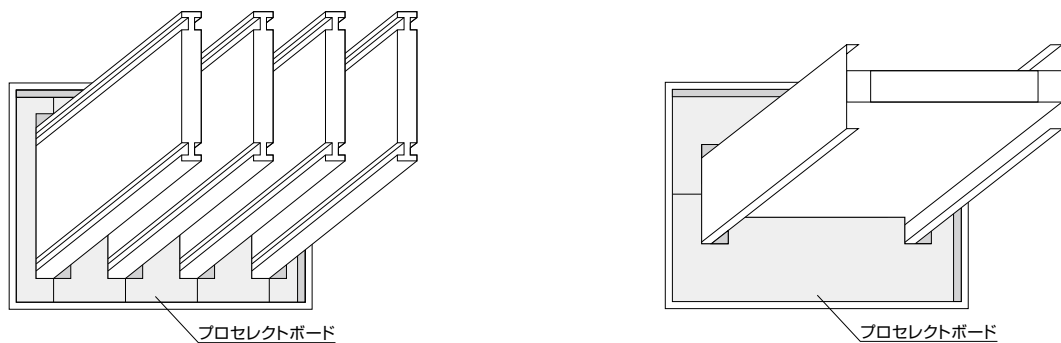
2. プロセレクトボードを開口部の寸法、貫通部のバスダクト、ケーブル等の形状に合わせて切断します。
 その際(図1参照)、プロセレクトボードとバスダクト、ケーブルの隙間が10mm以下になるように施工します。



【図1】バスダクトの凹凸部、隙間



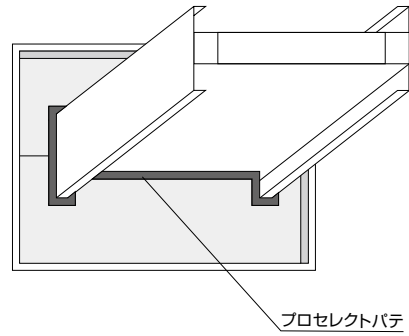
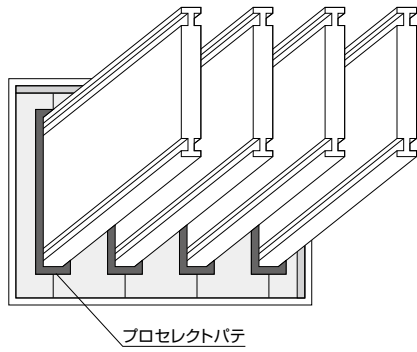
3. 開口部に手順1で加工されたプロセレクトボードを設置します。



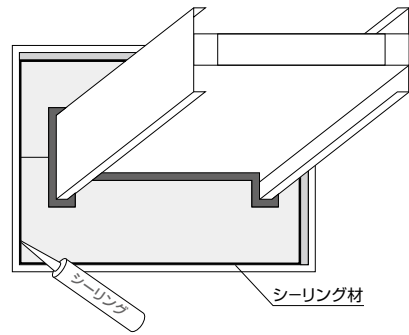
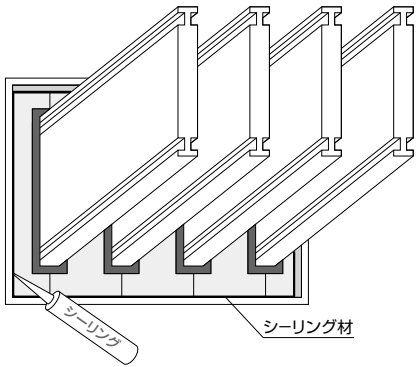
標準施工例【バスダクト貫通：壁の場合】PS060WL-0788-2,0789

4.バスダクト、ケーブルまわりにプロセレクトパテを施工します。

プロセレクトボード上面から深さ30mm以上をプロセレクトパテにて隙間を充てんしてください。



5.開口の四周にシーリング材(シリコン系あるいは変成シリコン系)を施工します。



◎標準施工図

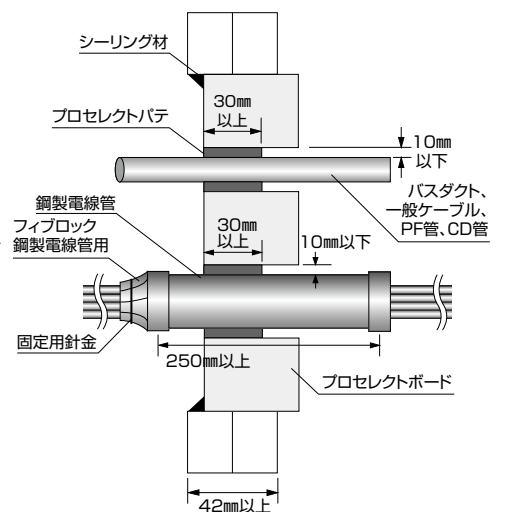
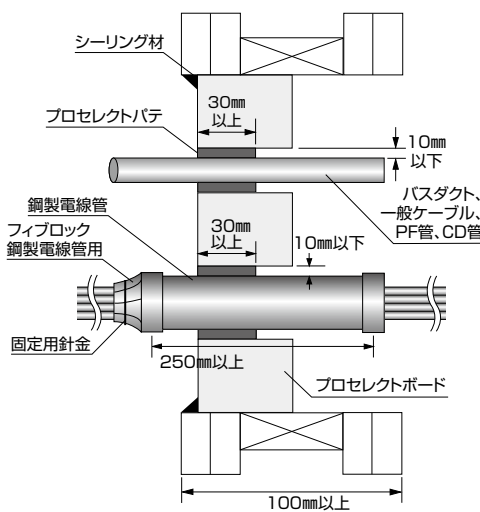
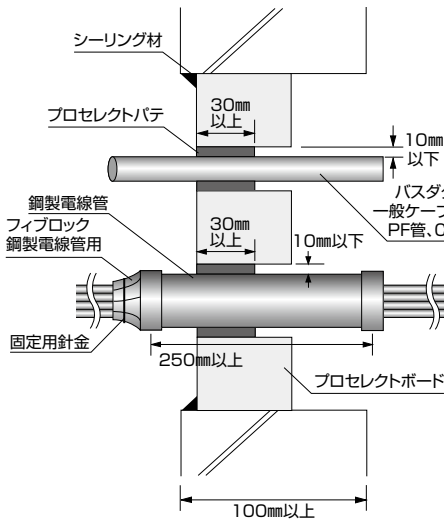
■鋼製電線管を設置する場合

鋼製電線管長さは250mm以上とし、プロセレクトボードとの隙間にはケーブル部と同様にプロセレクトパテを充填します。さらに「フィブロック鋼製電線管用」(別売)を施工します。

【ALC/コンクリート壁の場合】

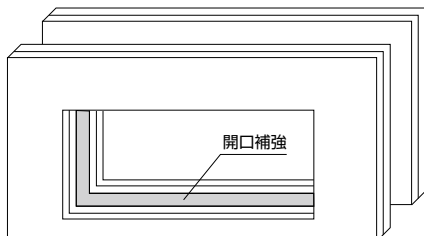
【中空壁の場合】

【片面強化せっこうボード(厚21mm)2枚張りの壁の場合】



■開口補強について

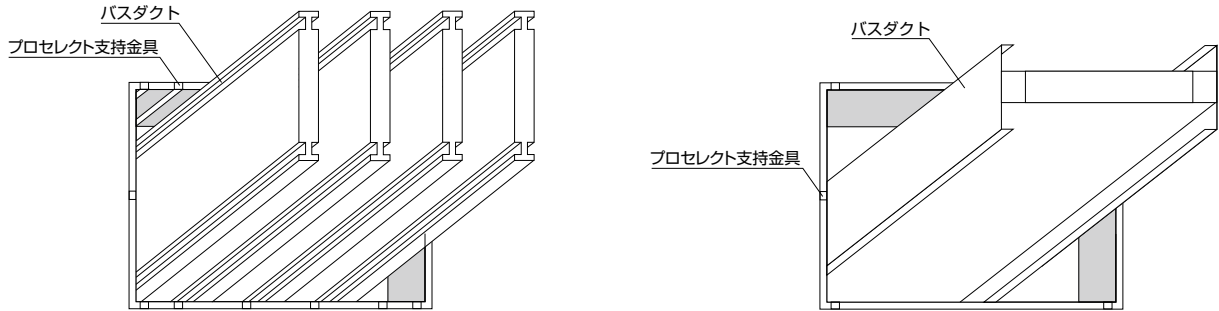
中空壁の場合、鋼製又は壁を構成する壁材と同等の材料による開口補強を設けてください。



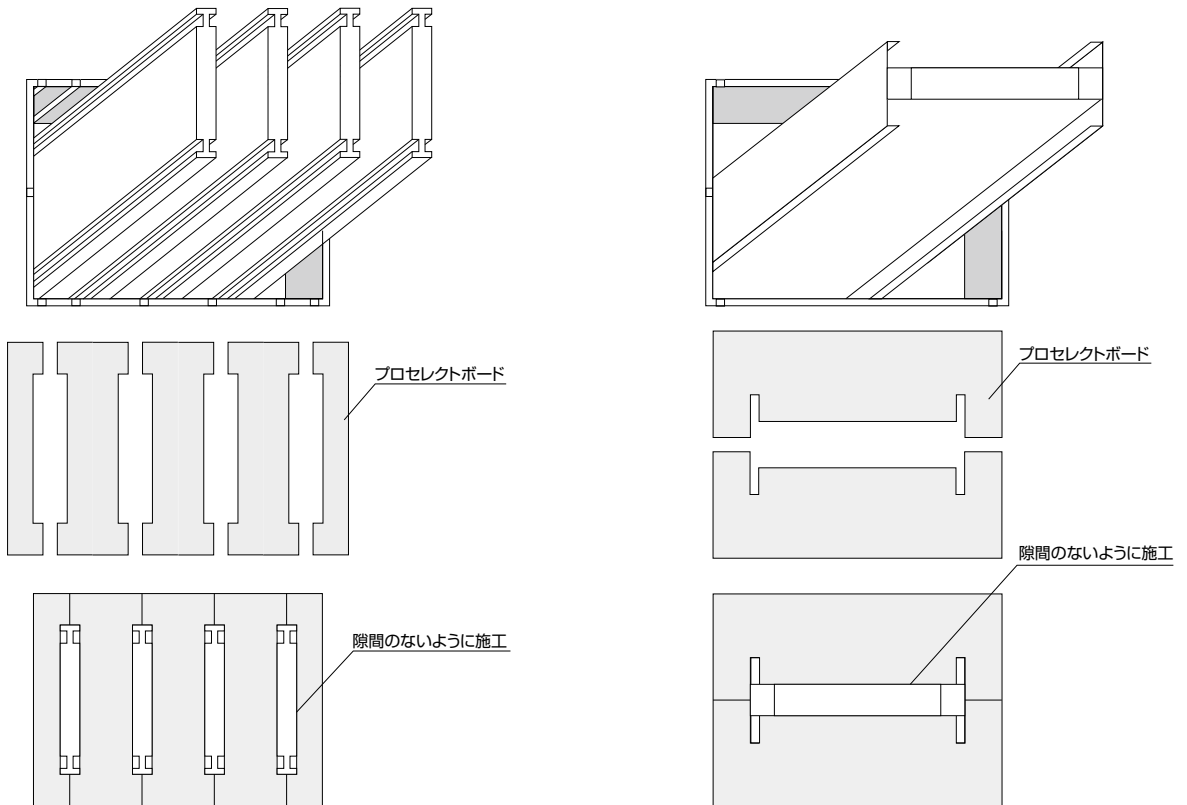
※片面強化せっこうボード(厚み21mm)2枚張りの壁の場合、開口補強の有無は問いません。

◎施工手順

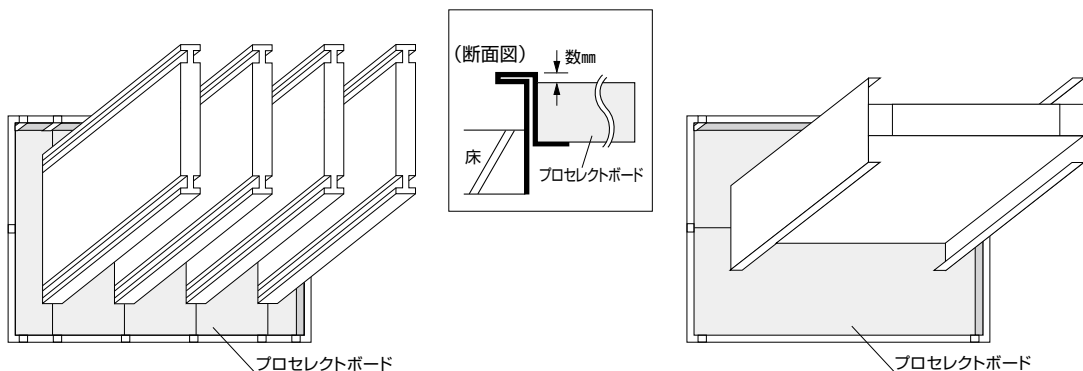
- 1.開口サイズ、バスダクト、ケーブル占積率及び床厚等が適正であることを確認します。鋼製枠使用の場合、床面からの露出部高さは50mm以下とします。
- 2.プロセクト支持金具を接着剤、両面テープあるいはビスにて、開口部に設置します。設置箇所はプロセクトボードの目地部および、目地部の発生しない辺にも、1個以上設置します。



- 3.プロセクトボードを開口部の寸法、貫通部のバスダクト、ケーブル等の形状に合わせて切断します。その際、下図のようにプロセクトボードとバスダクト、ケーブル等に隙間がないように施工します。



- 4.開口部に手順2で加工されたプロセクトボードをプロセクト支持金具にあたる位置まで設置します。



5.バスダクト、ケーブルまわりにプロセレクトパテを施工します。

バスダクトの凹凸、あるいはプロセレクトボードの施工上バスダクト、ケーブル等とプロセレクトボードの間に10mm以内の隙間が発生した場合(図1参照)、プロセレクトボード上面から深さ20mm以上プロセレクトパテにて隙間を充てんしてください。

バスダクト、ケーブルまわりにプロセレクトパテをテーパ状に厚さ20mm以上、高さ30mm以上盛りつけます。CVTまたCET325のケーブルにはさらに厚さ10mm以上、総高さ50mm以上になるように巻きつけます。(標準施工図参照)

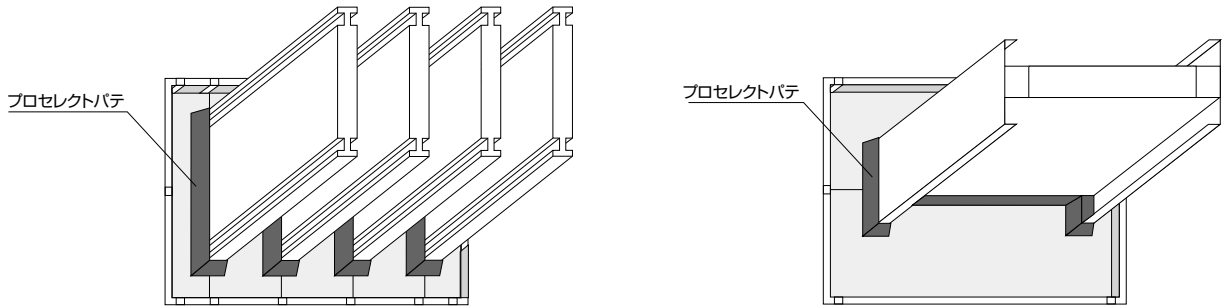
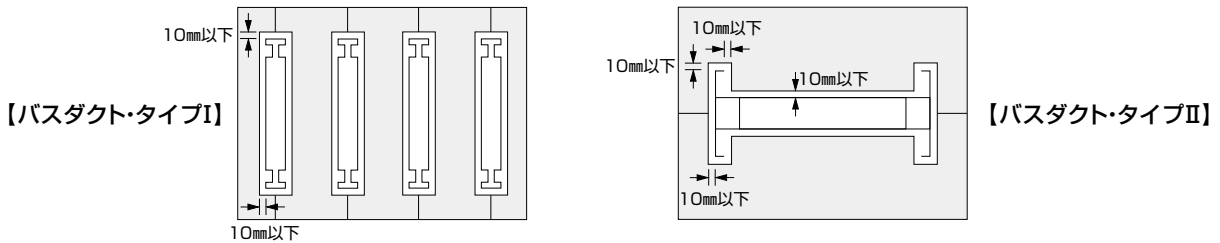
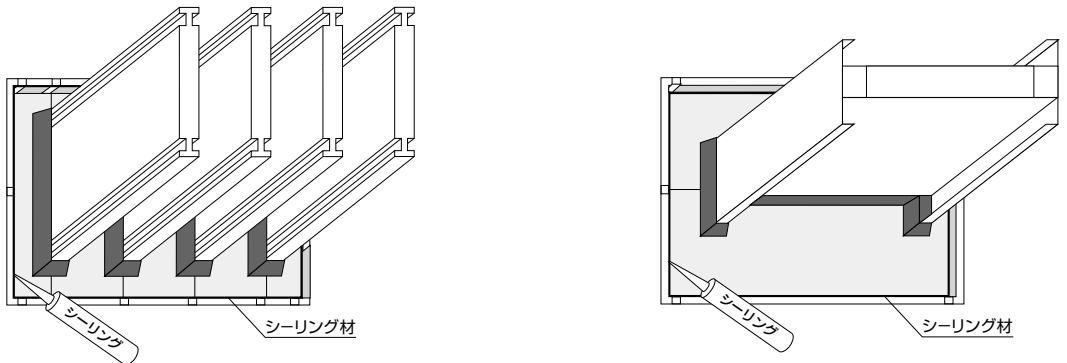


図1 バスダクトの凹凸部、隙間



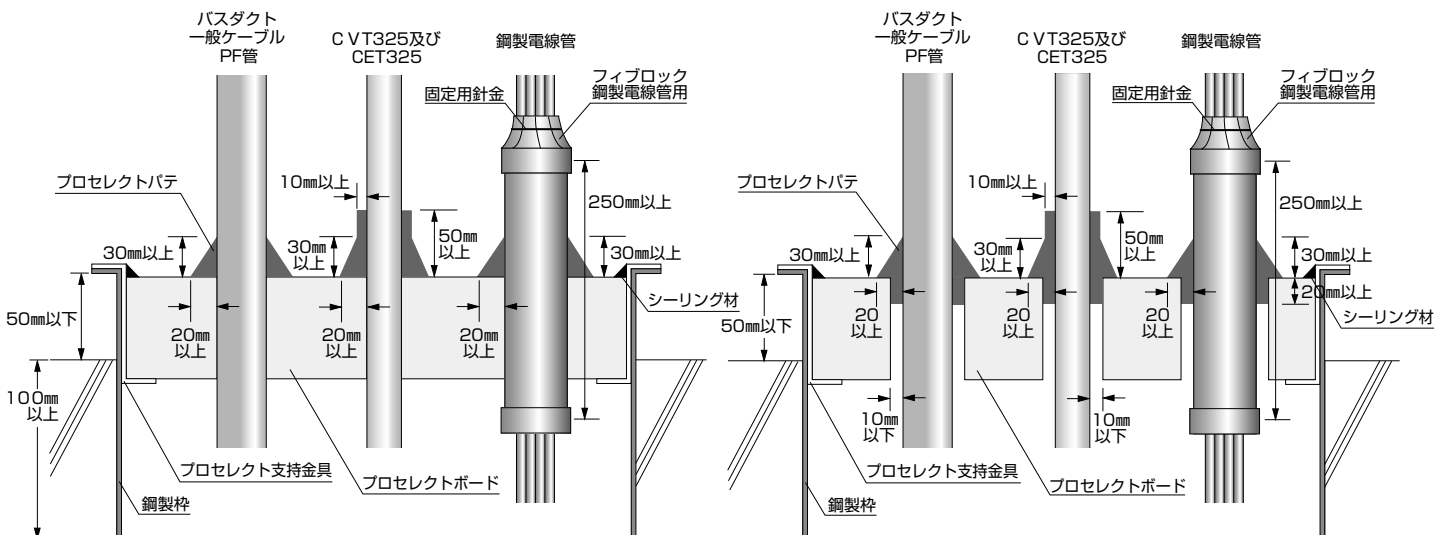
6.開口の四周にシーリング材(シリコン系あるいは変成シリコン系)を施工します。



◎標準施工図

■鋼製電線管を設置する場合

鋼製電線管長さは250mm以上とし、プロセレクトボードとの隙間にはケーブル部と同様にプロセレクトパテを施工します。さらに「フィブロック鋼製電線管用」(別売)を施工します。



⚠ 注意事項

- ファイブロックの用途、使用条件の詳細については各認定書・評定書、カタログをご確認ください。
- 区画貫通措置以外の目的には使用しないでください。
- ファイブロックの幅は規定の寸法となっていますので、幅を変えて使用しないでください。
- ケーブルや電線管の支持機能はありません。別途、支持固定を行ってください。
- 別途内線規程がある場合、遵守して施工してください。
- 防水機能はありません。必要な場合には別途、防水処理を行ってください。
- 必要に応じて、手袋や保護めがね等、適切な保護具を使用してください。
- 水濡れや直射日光、高温下は避けて運搬・保管してください。
- 紫外線や水、薬品等のかかるところ、高温多湿の環境下、結露する場所では使用しないでください。
- 製品に局所的な荷重が加わると、潰れなどの変形や破れの恐れがあるため、保管や輸送の際はご注意ください。
- 残材や使用後の廃材の処分は、法令及び地方自治体の条例に従ってください。
- 防火区画貫通について不明な点は、所轄の行政機関へご確認ください。

製造元 **積水化学工業株式会社**

耐火材料事業部

<https://www.sekisui.co.jp/fp/>



販売元 **積水マテリアルソリューションズ株式会社**

耐火資材営業所

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-3-6

TEL 03(6744)5806 FAX 03(6744)5807

●お問い合わせは上記連絡先をお願いいたします。

*本製品は改良のため予告なく仕様変更する場合があります。

ツールコード

No. 07364

(FP064T)
2023.11.TX